

ANNUAL REPORT 2021



ホールアース研究所

一人ひとりが
「人・自然・地域が
共生する暮らし」の
実践を通じて
感謝の気持ちと
誇りをもって
生きている

豊かな“自然語”があふれる未来に向けて

私たちは1982年の創設以来、人・自然・地域のより良い関係構築に向けて、主に「教育」「地域づくり」「コミュニケーション」という視点からアプローチしています。

合言葉は「自然語で話そう!」。自然と対話する感性(=「自然語」※造語)を磨き上げることがすべての活動の根幹になっています。

人口数千人の小さな町で生まれた活動ですが、企業・学校・行政・市民の皆さんなど、多様な主体との「連携のハブ」となることを意識し、小さな組織の“小さな渦(活動)”を“社会のうねり(社会的成果)”に育て上げることを常に試みています。また、こうした取組みを支える人材の育成プログラムについても早期より力を注ぎ、全国各地でノウハウを公開。数多くの人材を輩出していることも特長です。

NPO法人 ホールアース研究所

長年環境教育の分野で集積した知見を全国に横展開すべく、2002年に設立。企業のCSR活動との連携や環境省のビジターセンターの運営など、企業・行政・NPO・市民など様々なセクターと、協働の渦を生み出している。

活動拠点

Shizuoka
富士山本校(富士宮市)
田貫湖ふれあい自然塾(富士宮市)
富士市立少年自然の家(富士市)
Fukushima
福島事務所(郡山市)
Okinawa
沖縄事務所(うるま市)
Gifu
森林総合教育センター(morinos)(美濃市)

活動実績

連携する行政機関の数
約 20
連携する企業・団体の数
約 80

3法人合わせて...

5県8拠点で
活動を展開



株式会社 ホールアース

学校団体向け自然体験教室や子どもキャンプ、登山プログラムなどの主催事業を軸に、様々な活動を展開。日々の現場で培ったノウハウを活かし、人材育成や企業研修の企画・実施、地域課題解決に向けた取り組みも行っている。

活動拠点

Shizuoka
富士山本校(富士宮市)
Niigata
柏崎夢の森公園(柏崎市)
Okinawa
がじゅまる自然学校(名護市)

活動実績

2021年教育旅行参加者数
10,824名
2021年主催事業参加者数
(キャンプ・個人エコツアール等)
71名

農業生産法人 ホールアース農場

2011年より富士山南西麓に農地を借受け有機農業を実践。農作物の生産・販売・食農体験プログラムや加工品の製造に加え、2020年3月に出荷場兼加工施設を新設し、野菜を使ったパウンドケーキや、自社生産の5種類のジャガイモを使ったフライドポテトの製造・販売を行なっている。

活動実績

耕作面積・品種数
約 2.0 ha /
年間 約 80 種類

NEWS TOPICS 2021 → 2022

みんながHERO'S基金の寄付により、森林の重要性を学ぶ子供向けプログラムを実施

2021年10月26日、「みんながHERO'S基金」の寄付贈呈式が行われ、ホールアース研究所の他、静岡県内の森林保全に取り組む団体に活動資金が贈られました。この基金は、静岡の未来を育む活動をしている静岡県の団体や個人の活動を支援するもので、ホールアースは頂いた寄付金で親子を対象とした「木こりを体験するプログラム」と「ウォークラリーをしながら森の大切さを学ぶプログラム」を実施しました。



令和3年度ふじのくに環境フォーラムを実施



静岡県くらし・環境部環境局環境政策課からの委託を受け、「令和3年度ふじのくに環境フォーラム業務」を実施しました。同フォーラム内では、最近の地球環境問題の知見を深

め、持続的な社会づくりにつながる暮らしのヒントを実践者と共にワークショップ形式で考えました。また、別日にはフォーラムの学びを実体験する目的で親子対象のサイドイベントを実施しました。その他、国立環境研究所の五箇公一氏に「これからの地球環境と私たちの暮らしのあり方」についてオンラインでご講演いただきました。なお、この講演は『ふじのくにメディアチャンネル』で公開されています。

南アルプスを未来につなぐ会 設立記念イベントに パネラー登壇

静岡県は、南アルプスが持つ自然の希少性と貴重性についての理解を深め、それを未来へつなげていくことを目的に「南アルプスを未来につなぐ会」を設立。その記念イベントに代表理事の山崎が登壇。山極壽一氏(総合地球環境学研究所長)や佐藤洋一郎氏(ふじのくに地球環境史ミュージアム館長)らとともに、南アルプスの魅力を広めていくための方策について意見交換をしました。当日の様子はYouTubeチャンネル『みんなの南アルプス』で公開されています。

里地・里山の環境保全団体を対象にした研修会の開催や魅力発信用リーフレットを作成

静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課から受託した「令和3年度里地・里山保全推進事業モデル活動等普及業務」において、里地・里山保全の担当者や関心層に向けた「生物多様性保全のポイントとこれからの可能性」に関する研修会を実施しました。またそれに合わせ、里地・里山の生物多様性の魅力を発信するためのセルフガイド用リーフレットを作成し、県内の関連施設へ配布・設置しました。





大井川の深く豊かな自然が、 人に、未来に、魔法をかける

大井川の流域を舞台に、企業向けのアウトドア研修誘客を目的として、3つのモデルプランを提案。5代にわたりお茶づくりを続ける地元茶農家と一緒に農作業で汗を流し、その地で採れたお茶をいただく。夜は星空の下、ほうじ茶をロウリュしたテントサウナで暖まりながら交流し、ビジネスに関するアイデアの種を見つける時間を設けるなどこの地域ならではのコンテンツや素材を組み込んだ。

DATA

- ・3種類のモデルプランを作成
- ・紹介動画1本および8頁のパンフレットを作成
- ・モニター研修プログラムを実施
- ・コーチングやファシリテートなどを生業とする個人事業主や会員の計8名が参加
- ・8名のうち7名が、この研修がコミュニケーションの向上にかなり効果的またはまあ効果的と回答した。

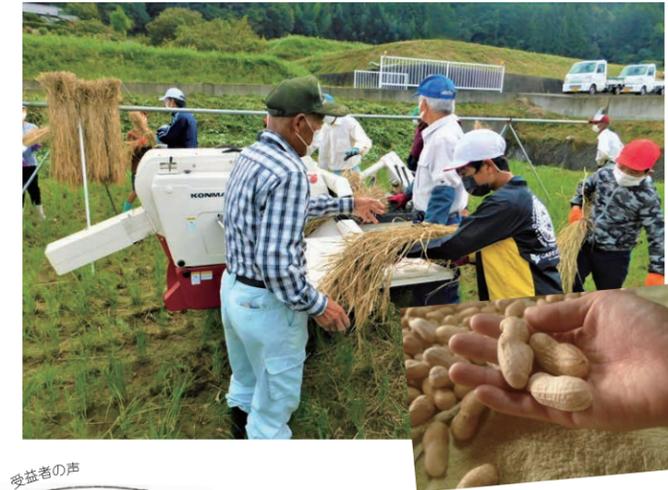


受益者の声
モニター研修参加者

お茶ワークで無限の森のように思えた場所を伐り遂げた達成感は格別。時間が経つと、伐る人、運ぶ人という役割分担が自然にでき、参加者の連帯意識が深まっていく楽しさも味わいました。(※放置された茶畑の剪定作業を行った際の感想)

受益者の声
モニター研修参加者

いわゆる裸の付き合いのように、サウナに入るという体験によって一気に距離が縮まったなど実感しています。



県内東部の農山村を取り巻く 魅力的な情報を発信

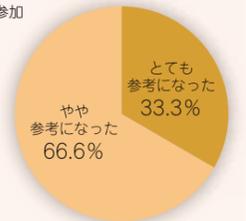
静岡県東部地域の農山村情報を集積し、情報発信することで地域内での情報交流を促進しつつ、効果的な情報発信をはかるため、静岡県(農地保全課)からの受託を受け、ワンストップ窓口として、農山村情報発信のWebページ「むらサボ」での情報発信やイベント情報の取材、地域資源情報の収集、地域振興をテーマとした研修会の開催などを行った。

DATA

- ・「むらサボ」での情報発信数/100件
- ・イベント及び地域特産品等取材/5件
- ・地域資源情報収集/4エリア32件
- ・オンライン研修会/13名参加

アンケートによる
研修会の満足度

とても参考になった・・・33.3%
やや参考になった・・・66.6%
※その他の評価は回答なし



受益者の声
参加者

猪之頭で地域資源を活用し実施されているアクティビティや、企業の健康経営をテーマに開催されたヘルスツーリズムについての理解が深まった。単に実施するだけではなく、それが健康にどのような影響を及ぼしているかの高加速手も行われているということで機会があれば、参加してみたいと思った。

受益者の声
参加者

ワーケーションとヘルスツーリズムの2つをテーマが紹介されていたが、いずれも地域と行政と企業の各組織が連携し、地域の共生を目指すための相互協力が素晴らしいです。

雲水自然学校人材育成講座

Online

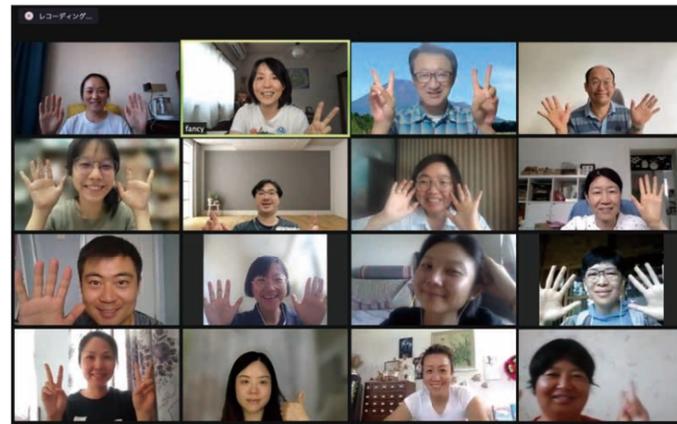
中国人向け自然学校人材育成講座、 オンラインでスタート!

コロナ禍でそれまでの対面交流ができなくなり、2021年よりオンラインでスタート。これまで連携してきた「日中市民社会ネットワーク」からの依頼で、「自然学校の運営/社会企業」講座を担当。他に「コミュニケーション」「インタープリテーション」「安全管理」の講座があり、日本の他の自然学校担当者が講師を担っている。講座を通して自然学校のノウハウの特徴が自覚できるようになり、受講生の質問を通して様々な刺激を受けた。

DATA

春講座/全5回・16名
秋講座/全7回・12名 が受講

中国各地の自然学校関係者、特に中核団体の指導的スタッフが受講して、組織内への波及が期待できる。



受益者の声
参加者
(アンケートより抜粋)

社会企業としての自然学校という講座は、他の3つの講座で学んだものを総合的に運用し、それを新しい事業を作り出す方法を教えてくださいました。次は、なぜ理念からずれないで、どんどん新しい、いろんなテーマの事業を作り出せるか教えてほしいです。

受益者の声
主催者
CS-NET 朱さん

オンラインでの講座のおかげで、長年やってきた日中自然学校の交流を、コロナで直接に会えない状況の中でも、継続できました。現場を見たり、対面で感じ合ったりすることができないから、物足りないところもありますが、時間や金銭的なコストが低い分、参加しやすいので、より多くの人に届けることができるメリットがあると思います。

子どもが自然と遊ぶ楽校ネット/ 福島県子どもの冒険ひろば設置運営業務委託事業

Fukushima

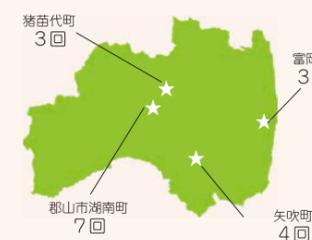
地域の大人とつくる、 子どもたちのための自由な遊び場

震災後、子どもたちの自然体験及び環境教育を生業とする福島県内団体によって結成された「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」。福島県からの委託を受け、子どもたちが「自らの責任で自由に遊ぶ」ことを原則とした遊び場「冒険ひろば」を県内各地で実施している。福島事務所は加盟団体として郡山市で実施する他、富岡町・猪苗代町・矢吹町、各地の子育て団体や体験活動を主催する団体の支援・連携を取ることで冒険ひろばを実施し、自然体験の裾野を広げた。



DATA

2021年度開催実績(福島事務所が関わった地域のみ)



実施回数合計
17回
全参加者数(子ども)
262名

受益者の声
いわき・双葉の子育て応援
コミュニティcotohana
鈴木 みなみさん
小林 奈保子さん

双葉郡での初開催にあたり、郡内で外遊びできる場所の発掘からご協力いただき、活動の可能性を広げることができました。参加する親子も次第に「あそび」のコツをつかんで、初対面同士が一緒になって遊ぶ風景が見られました。(富岡町で冒険ひろばを実施)

受益者の声
一般社団法人ヒトキト
飯塚 智崇さん
(矢吹町で冒険ひろばを実施)

開催にあたり、実施のノウハウが無く、物品の不足やスタッフ側の課題や不安もあった。サポートいただきつつ、課題も共有し、相談しながら開催できたことで来てくれた子どもたちと安心して接することができました。(矢吹町で冒険ひろばを実施)

mini
対談

株式会社柳沢林業
代表取締役 原 薫

NPO法人ホールアース研究所
副代表理事 大武 圭介

森林環境教育の推進には、林業関係者との協働も必要不可欠である。柳沢林業（長野県松本市）は、林業をはじめ農業やキャンプ場運営など様々な切り口で木や森のメッセージを伝えている。代表取締役の原薫さんから柳沢林業の新たな取り組みや事業への想いを伺った。

大武：私たちホールアース自然学校では、様々な森林環境教育プログラムを実施し、同時にそうしたプログラムの指導者育成にも力を注いでいます。その中で、しばしば林業関係者とコラボレーションをさせていただくのですが、大学の同期ということもあり、原さん、つまり柳沢林業さんにも大変お世話になっています。柳沢林業さんというと、「豊かな風景をつくる」「山の恵みを活かす」「馬と共に米を育てる」など、魅力的なキャッチフレーズが印象的です。まず、御社の概要から教えてもらえればと思います。

原：元々は素材生産の会社です。山主さんが育てた立木を購入して、素材として販売するというをやってきました。しかし、こうした経営が成り立ったといえる時期は長くはないと思います。私が携わってからも木材価格はどんどん落ちていきました。特に、信州は標高が高く、また今住んでいる松本周辺は晴天率が高く乾燥しているために、カラマツ・アカマツが植えられています。国の林業政策が全国的に多いスギ・ヒノキを基準に作られるために、地域の実情に合った施策が進めにくくなっています。

大武：木という素材を取り巻く外部環境が大きく変化する中、多くの林業事業体が経営に苦勞されていると聞きますが、柳沢林業さんにも大変な苦勞があったと推察します。

原：国の補助金制度においても様々なメニューが用意され、私たちもそれらを受けながら事業を続けていますが、補助金で「食いつないでいる」うちに、いつの日か、何のために林業をやっているのかわからなくなってきたという心境に陥っていました。端的に言うと、明るい未来が見えなくなったんです。

大武：そこで、事業承継のタイミングで様々なチャレンジに乗り出すという流れになるんですね。

原：はい。最初に着手したのは、これまで森林組合さんの下請けとして行っていた森林整備を、直接山主さんと契約できるようにしていきました。そうした中、自分たちでしっかりと山や木の現実をお客さんに伝えたいと思うようになってきたのですが、林業の難しいところはお客さんの顔が見えにくい点なんです。

大武：なるほど。例えば、伐った木が住宅用材になったら工務店さんなどが間に入ってくるので、なかなか一般消費者からは山や木の実態は見えないですね。もちろん、そこで働いている人々の顔も見えないし、作業現場の様子も伝わりにくいんですね。こうした状況のもとで、木を使ってもらう、価値を見出してもらう、税金でサポートしてもらう、ということ考えた際のモヤモヤは想像できます。

原：とにかく、日々「どのように山のことを伝えるか」について考えていました。その過程で、例えばですね、松枯れが進む中、まだ使える木も含めて一斉に燻蒸している様子に疑問を感じていたのですが、そうしたことをどのように伝えようかということを考えていた時、馬搬（ばはん）のアイデアが出たんです。馬を使って幹の部分は市場へ出す。枝葉は燃やして炭にし土壌改良材に。そして「馬」なら注目してもらえるかも。そこで地域の方に相談したところ、馬を飼っている方との縁ができたんです。そして実際に馬を連れてきてもらって、馬搬のイベントを一緒に実施してもらいました。最初に馬に引いてもらった時、やっぱり「一馬力」はすごいなぁと感動したのをはっきり憶えています。

大武：私の勤務先のモリノスでも原さんに手伝っていただき、馬搬の体験をさせていただきました。すごく素敵な時間でした。ところで、馬を飼うにあたって、社内的な合意はすぐに得られたのですか。

原：現会長は大反対でした（笑）。「私が飼います！」と啖呵を切ったカタチです（笑）。クラウドファンディングなども活用し、どうにか飼育できる環境を作ることができました。名前は「ヤマト」だったのですが、効果は想像以上。ヤマトを見たくて人が集まり、これまで出会わなかった人たちが新たな展開を生み、ヤマトや自然に触れた人が自分を取り戻していきました。結果、荒れた里山に手が入っていくこととなります。こうして、少しずつですが、森林と



人の暮らしの接点が生きて、会社として何をしていくべきかという方向性が見えてきたのです。

大武：原さん自身の木への思いや森と向き合う姿勢が、多くの人々やヤマトとの出会いを生み出し、彼らを通して会社の方向性まで見えてきたという経緯はとても刺激的です。ホールアースもスタッフ個々の思いを土台に、組織全体が進む道が決まっていくタイプなので、少し似ているような気がしています。

原：事業を引き継いでからも壮大なビジョンを描いてきたわけではなく、その時その時の出会いや思いを大切にしてきました。近年力を注いでいる酒米づくりも、山の恵みを農作物を通じて伝えられないかと考えていたとき、ちょうどある人と出会い、そこから始まったんです。

大武：さらに、キャンプ場の運営にも携わっているとのことですが。

原：はい。社員がやってみたくてと言っていたのを過去に耳にしたことがあって、たまたま管理者を公募しているキャンプ場を見つけたので、チャレンジすることにしました。もちろん、私たちだけでは難しい点もあるので、多くの人に支えてもらいながら頑張っています。

大武：すごい展開ですね。ただ、ホールアースでもそうなのですが、新規事業が極端に個人の思いだけに偏って展開されると、元々あった事業との関連性やストーリー性の面で整理が必要になることもあるのではないのでしょうか。



原：そうだと思います。「なぜ林業会社が農業？」と言われますが、農作物を育てる「水」は森からの恵みそのもの。そのストーリーを大切に、酒米を作っているのです。信州松本の山を知る林業会社が、馬と共に米を育て日本酒を作ることで、何か伝えられるメッセージがあるのではないかと考えています。キャンプ場も、せっかく林業会社が手掛けるのだから、その強みをしっかり活かすことができる展開を皆と一緒に模索しています。

大武：ところで、私と原さんは同じ大学の同期なのですが、原さんの専攻は応用生物化学でしたね。学生時代を振り返って、今の活動の原点のようなものはありますか。

原：大学は農学部で環境問題への関心から選びました。応用生物化学専攻だったけれど、樹木学を学ぶこともできました。多様な樹木をそれぞれの特性に合わせて使い分けていた日本の木の文化に興味が出たのはこの頃です。静岡市の井川地区にある演習林へ実習に行

ったり、南アルプス登山で山の魅力に出会えたのも貴重な経験です。卒業後も様々な人や書籍に出会い、自分が何をしたいのか少しずつ見えてきて、静岡市の井川森林組合に就職したことで、山で生きていく上で必要なことを一気に学んだ気がします。

大武：ホールアースの本部がある静岡県にも縁が深いんですね。さて、たくさんの魅力的な取り組みを展開している柳沢林業さんですが、日々の経営的判断を重ねていく上で大切にしていることはありますか。

原：今は時々しかやっていないのですが、かつて2年間ほどしっかり向き合った「ヨガ」は、今の私の経営判断に大きな影響を与えてくれています。あの2年間は経営者になるための短期合宿のようなものだったとさえ思いますし、ヨガの経験があったから社長を引き受けることができたと感じています。

大武：原さんとは長い付き合いですが、その話は初めて聞きました。もう少しだけ、教えてください。

原：私にとってヨガは「真我」、つまり「本当の自分」を見つけるトレーニングでした。自分の中で、それは「愛」でした。私自身、人や事柄に対峙したとき、色々な感情が湧き上がり、「愛」を選択できないことも多いと思っています。その行動は「愛」から出たのか、単なる「エゴ」から出たのかを、その都度自分に問うようになっています。

大武：なるほど。最近、その経験が活きていると思うことはありますか。



原：最近では、本当に情報が多すぎて勘違いや判断ミスが起こりやすいと感じています。経営者としては常に自分を整えておくことが大切。直感は大切ですが、大きな間違いはできないという現実もあるので、自分自身の心の声と客観的な数字の両方を見つめながら日々を歩んでいるのですが、このプロセスの中にヨガの経験は活きていると思っています。また、経営者になると、とにかく選択と決断の連続です。丹田が強化されて、肚を括るという感覚がわかるようになったのも、ヨガのおかげです。

大武：本日は、柳沢林業さんの新たなチャレンジと、その経営者としての原さんの思いやお考えを伺うことができました。基本的な考え方や物事の進め方にホールアースとの親和性を感じましたし、何より、木や森のメッセージを人々に伝えるためのアイデアや実践の中には、今後の森林環境教育の推進に向けた大きなヒントが詰まっているように思いました。これからも様々な場面でご一緒させてください。本日はありがとうございました。

Profile/原 薫さん

(株式会社柳沢林業 代表取締役)

1973年神奈川県川崎市生まれ。筑波大学卒業後、1997年静岡市井川森林組合に就職し、林業の道へ。1999年に長野県に移住し、2003年柳沢林業入社、2013年より現会長より事業承継し、代表取締役に就任。木材生産を中心に新たな林業の可能性を模索中。また2017年一般社団法人ソマミチを設立し、「木を使う社会の仕組みづくり」を目指す2016年3月、全国の農山漁村地域の次世代リーダーとして期待される女性や団体に贈られる「農山漁村男女共同参画優良活動表彰」の最高賞・農林水産大臣賞を受賞。

Profile/大武 圭介

(NPO法人ホールアース研究所 副代表理事)

1973年愛知県豊橋市生まれ。筑波大学大学院修士号取得後、民間の自然学校に3年間勤務。岐阜県立森林文化アカデミーを経て、2003年ホールアース自然学校へ入社。現在、NPO法人ホールアース研究所副代表理事、岐阜県立森林文化アカデミーmorinos（森林総合教育センター）担当。

企業・行政・団体等との連携事例

ホールアース研究所では、企業・行政・NPO・市民等、様々なセクターと連携することで、多様な事業を実施してきました。そんな中でも、特徴的な連携事例をご紹介します。

企業・行政・団体等のニーズ(例)

環境の専門的知見から事業を見直したい

CSVを見据えた発展的なCSRを実現したい

社会貢献に資する事業に社員をもっと参画させたい

SDGsに基づいて自社事業の設計と促進をしたい

ニーズに対してホールアース研究所ができること

企画提案段階

- ・事業相談
- ・検討会議への参加
- ・業界リサーチ
- ・事業提案等

企画実施段階

- ・事業連携
- ・コンサルティング
- ・事業実施
- ・コーディネート
- ・専門家の派遣
- ・事業パートナー紹介
- ・事務局運営

5つの連携モデル例

3 個々の力を結集し、社会により大きな成果を創造する

- ・検討会議への参加
- ・事業企画、立案
- ・事務局運営
- ・事業実施、連携

◆取り組み例
ろうきん森の学校全国事務局
緑の少年団 交流集会
若手プロジェクトリーダー研修フィールド実習 in 富士宮 企画運営業務

4 誰もが自然に赴くことのできる機会・きっかけを創造する

- ・検討会議への参加
- ・事業企画、立案、実施
- ・事業パートナー連携
- ・施設ブランディング、管理

◆取り組み例
田貫湖ふれあい自然塾
富士市立少年自然の家 / 丸火自然公園
むらづくりワンストップ窓口運営業務
富士宮市NPO等市民活動促進事業

5 地域コミュニティとともに事業を創造・活性化

- ・事業企画、立案
- ・コンサルティング
- ・事業パートナー連携
- ・事業実施、連携

◆取り組み例
地域循環共生圏プラットフォームづくり事業
アフターコロナを見据えた大井川流域周辺地域におけるアウトドア研修の誘致業務
森林総合教育センタープログラム実施等業務

1 既存または未活用の自然資源を用いて、社会に新たな価値を創造する

- ・事業企画、立案
- ・事務局運営
- ・事業実施

◆取り組み例
三井物産(株)「社有林の森林環境プログラム」
住友林業(株)「富士山まなびの森」
富士山南麓の森フォレストセイバープロジェクト
FabLab鎌倉「FUJIMOCK FES」

2 社会課題及び環境問題解決の担い手を育てる

- ・事業企画、立案
- ・全国事務局運営
- ・事業実施、連携

◆取り組み例
静岡県「里地里山保全推進事業」
静岡県「森林環境教育指導者養成講座」
小田原市「森のせんせい養成講座」
静岡県「森林・山村多面的機能発揮対策安全技術研修資料作成業務」

5つの連携事例

3 全国の若手PJリーダーが、ホールアースの協働事例をフィールドワーク

「若手プロジェクトリーダー研修フィールド実習 in 富士宮 企画運営業務」

委託元：独立行政法人環境保全機構 地球環境基金



○依頼内容
全国各地の環境NPOで活動する若手の環境リーダーを対象に、ホールアースの協働事例に関わるステイクホルダーへのフィールドワーク(取材・分析、とりまとめ)を通して、「協働=協力関係の作り方」を学ぶ。

○協働内容
「企業の森づくり」「シビエ」「新たなエコツアー開発」の協働事例を準備し、それぞれの事業のステイクホルダーと調整して、研修参加者からのオンラインによる取材等を実施。それをとりまとめ、自団体の活動につなげる研修を行った。

○主な成果
現場では聞き取ることが難しいステイクホルダーの声を実際にインタビューで丁寧に聞き取ることで、協力関係をどのように作っていったらよいかについて具体的に学ぶ機会を提供することができた。

1 デジタルテクノロジーを用いて地域の未利用木材に命を注ぐ

「フジモックフェス」

協働先：FabLab鎌倉など



○依頼内容
人工林で間伐された、市場に出にくい材を有効利用するために、デジタルファブリケーションやオンライン設計ツールを活用した、個人向け森林環境教育プログラムを展開する。

○協働内容
森林・林業の基礎的な考えや実情をホールアース及び林業関係者が担った。一方、デジタル工作機器等を活用した加工の仕組みの構築及び指導をファブラボ鎌倉とファブラボ南小国、VUILD株式会社が担った。

○主な成果
全国の参加者がオンラインで森や林業を学び、PC上でツールを簡易設計してデータ送信。後日、九州の小国杉が半製品状態で宅配され、仕上げた。

4 すべての宮っ子(富士宮市のもたち)に川と親しむ体験を

「富士宮市NPO等市民活動促進事業」

助成元：富士宮市(市民交流課)



○依頼内容
NPO等市民活動促進事業に助成申請することで活動資金を調達し、川に関わる地元関連団体及び行政と連携しながら、富士宮市が推進している地域循環共生圏づくりに向けた活動を具体化する。

○協働内容
地域の生物多様性保全を担う次世代を育成するため、地元河川の生き物をテーマとし、専門の講師を招き、水生生物を採取・同定する調査型の自然体験プログラムを同じ川の上・下流部で計2回実施した。

○主な成果
当日は地元紙の取材を受けその記事が掲載されると共に、後日市役所の展示スペースでポスター発表することができ、より多くの市民の目に触れる機会となった。

2 林業施策に係る自己研修実施のための資料動画の作成

「森林・山村多面的機能発揮対策安全技術研修資料作成業務」

委託元：静岡県



○依頼内容
林業施策に必要な基本的な施業技術や安全管理などをまとめた動画を作成するために、林業指導者研修の取材や撮影を行う。また、撮影した動画の編集を行い、林業施策者に向けた自己研修実施のための資料動画を作成する。

○協働内容
林業指導者研修に同行し、動画の撮影と施業技術の取材を実施。取材した素材を利用して、5分の動画を3本作成。動画は動画配信サイトの静岡県公式アカウントにて公開された。

○主な成果
動画という今まで利用していなかった媒体を用いて林業施策者に発信することで、安全技術や安全意識の向上に繋げることが出来た。

5 すべての人と森をつなぐmorinos本格始動!

「森林総合教育センタープログラム実施等業務」

委託元：岐阜県立森林文化アカデミー



○依頼内容
令和2年7月にオープンしたmorinos(モリノス)で、来場する親子向けのプログラムの開発・実施、一般県民向けの募集型プログラムの企画・実施、地域で活動する連携団体等へのアドバイスを行う。

○協働内容
morinosひろばを「森のプレーパーク(冒険あそび場)」とするため、来場する親子がやってみたくなる自然遊びの仕掛けを設置した。泥や木の実、葉っぱ等、身近な素材を活用したプログラムを多数実施した。

○主な成果
令和3年度は業務拡大に伴い、3名体制で実施した。保育士やピシターセンター経験者を配置し、いつでも気軽に森林体験ができる体制を構築できた。

2021年度 活動計算書(抜粋)

2021年度の総括

2021年度も新型コロナウイルスの影響を大きく受けましたが、多くの皆様のご協力をいただきながら、約510万円の黒字で決算することができました。大人数を集める環境学習プログラムの実施は叶わない時期が続いていますが、調査・コンサルティング関連事業や指導者育成研修、オンライン事業、施設運営などに力点を置きながら、組織のミッション実現と経営的なリスク回避を両立させることに尽力しています。次年度以降も社会の動きを注視しながら、ホールアースらしい経営を続けたいと考えております。

I. 経常収益		
1. 受取会費		50,000
2. 受取寄附金		17,496,266
3. 受取助成金等		4,498,078
4. 事業収益		149,546,120
5. その他収益		122,590
経常収益計		171,713,054
II. 経常費用		
1. 事業費	(1)人件費	76,504,990
	(2)その他経費	76,321,626
2. 管理費		11,848,252
経常費用計		164,674,868
当期経常増減額		7,038,186
III. 経常外収益		123,300
IV. 経常外費用		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		7,161,486
法人税、住民税及び事業税		2,057,000
当期正味財産増減額		5,104,486
次期繰越正味財産額		△2,869,536

役員紹介(2022年7月現在)



代表理事
山崎 宏

2021年度も多くの皆さまの支えをいただきながら、活動を進めることができました。心より感謝申し上げます。新型コロナウイルスの影響を受けながらも、各拠点で新しい試みがたくさん生まれ、広がりを見せていることに喜びを感じています。人と自然の関わりのあり方が見直されている今だからこそ、私たちホールアース研究所にできることの幅も広がっていると考え、スタッフ一同、次年度以降も前向きに歩みを進めてまいります。なお、2022年度からは役員体制を新たにします。引き続き、変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



副代表理事
広瀬 麗子



副代表理事
大武 圭介

理事

浅子 智昭
小林 政文
津田 和英

遠藤 亮
角田 周一
平野 達也

小野 比呂志
諏訪 さやの
和田 祐樹

監事

遠藤 敬悟

2021年度の事業(一部抜粋・順不同)

- ・富士山「まなびの森」環境学習支援プロジェクト(住友林業株式会社)
- ・富士山南陵の森フォレストセイバープロジェクト((一社)富士山南陵の森フォレストセイバー)
- ・管理捕獲等担い手育成研修運営業務(静岡県)
- ・伊東自然歴史案内人養成講座(静岡県伊東市)
- ・森林環境教育指導者養成講座業務(静岡県)
- ・森のせんせい養成講座業務(神奈川県小田原市)
- ・佐世保市江迎地域ガイド育成・体験コンテンツ造成事業((公財)佐世保観光コンベンション協会)
- ・湖南高校コミュニティスクール導入事業(福島県)
- ・「森林を活用した持続可能な社会づくり」の学習促進業務((公財)静岡県グリーンバンク)
- ・「ろうきん森の学校」事業(労働金庫連合会)
- ・里地・里山保全推進事業モデル活動等普及業務(静岡県)
- ・猪苗代湖舟津(湖南町)エリアコンテンツプログラム造成業務(福島県郡山市) 等



富士山本校〔直営〕
〒419-0305
静岡県富士宮市下柚野165
TEL：0544-66-0790
FAX：0544-67-0567
<https://wens.gr.jp>



田貫湖ふれあい自然塾〔委託〕
〒418-0107
静岡県富士宮市佐折633-14
TEL：0544-54-5410
FAX：0544-54-6400
<https://www.tanuki-ko.gr.jp>



富士市立少年自然の家
／丸火自然公園〔指定管理〕
〒417-0801
静岡県富士市大淵10847-1
TEL：0545-35-1697
FAX：0545-36-2799
<https://www.fuji-marubi.jp>



福島事務所〔直営〕
〒963-1633
福島県郡山市湖南町
福良字中浜3979-1
TEL：024-983-6411
FAX：024-983-6722
<https://wens.gr.jp/fukushima/>



がじゅまる自然学校〔直営〕
〒905-1143
沖縄県名護市真喜屋845
TEL/FAX：0980-58-1852
<https://www.wens.gr.jp/gajumaru/index.html>



morinos(森林総合教育センター)〔委託〕
〒501-3714
岐阜県美濃市曾代88番地
(森林文化アカデミー内)
TEL：0575-35-3883
FAX：0575-35-2529
<https://morinos.net>



2021年度 年次報告書／発行日: 2022 年 9 月 20 日

名 称 : 特定非営利活動法人 ホールアース研究所
所在地 : 〒419-0305 静岡県富士宮市下柚野165
TEL : 0544-66-0790 FAX : 0544-67-0567
設 立 : 2002年 3月
代表理事: 山崎 宏
U R L : <http://wens.gr.jp/>